

# 心に「えっ!？」を生み出そう

目標

問題場面との出会い

既習との対比  
経験の想起

経験や既習内容と比べて数量形の関係をつかむ

- ・似たところはどこかな？
- ・違うところはどこかな？
- ・何がわかっていて、何を聞いているのかな？

### 【指導のポイント】

「つかむ」段階で大切なのは、問題に対して、子どもが自ら立ち向かう意欲を持つことができるような知的好奇心を喚起することです。

準備

解決の見通し  
方法の選択

自分なりの考えをもつ  
(解決1)

### 発見的な問題場면을提示しましょう

単に問題を与えるだけではだめ。子どもに与えるのは「問題を含む場面」とであると考えましょう。

**ヒント1** 既習と対比させた問題場면을比較提示しましょう。

できる前時の問題 できない本時の問題と提示して、困っている子どもに「どこが違うの?」「どこが難しいの?」と聞きましょう。

**ヒント2** 条件不足の場면을提示しましょう。

数値などが不足している場면을提示し、困っている子どもに「後どこがわかればいいのか?」と聞きましょう。

**ヒント3** 条件付加の場면을提示しましょう。

「実際に折れない・数えられない・図に描けない・測れない」など、子どもに解決困難な場面を与えましょう。

**ヒント4** 特殊から一般へと提示しましょう。

「割り切れる 割り切れない」「直角三角形 不等辺三角形」というように、いつでもいえるか??を意識させましょう。

**ヒント5** 属性を含む生活場면을提示提示しましょう

属性をいっぱい含む、実生活の問題を提示しましょう。

発展

仲間との  
考えの交流

よりよい考え  
への気づき

考えを見つける  
(解決2)

子どもとともにまとめた既習の学び方を掲示して使えるようにしておきましょう

教師がわかりやすくまとめたものではだめ

子どもが「どんな活動(操作)」で「どんな考え方」を身につけたかがわかるようなものでないと使えません。

毎時間のまとめの場で、意図的に子どもの言葉をとりあげまとめましょう。

応用

課題

考えの活用  
と  
技能の習熟

本時の学習の  
振り返り

### 課題の見つけ方は、毎時間、繰り返し意識させましょう

問題に出会ったときの、行動の仕方について、毎時間きちんと指導しましょう。「わかっていることは」「きいていることは」・・・などと聞くのではなく、問題をみて「見つけましょう。」と問えばよいのです。

その中で、見つける中身は「わかっていること」「聞いていること」「今までの勉強と比べて」「不思議なこと」「この方法が使えるそう」であることを徐々に教えればよいのです。

### 課題は、子どもの意識を言葉にしましょう

「今日は～を勉強します。」と子どもに与えるのは、ナンセンス

子どもの「ここが難しい」「ここをはっきりさせたい」を課題としましょう。